



状況はどうかなど現地調査活動を始めております。しかしながら衆議院の解散、総選挙があり予定がなかなかつかない状況ですが、県民皆様の要望にしっかり応えられようという態勢を整えてまいりたいと考えております。

議会活動

吉村知事による六月補正予算が、「肉付け予算」として五四一億円計上され審議されました。当初予算と合わせ約六、一三〇億円となり、平成十三年度以来、久々のプラス予算となっておりますが、国の補正予算を有効に使いながら、景気、雇用対策を念頭にかつ知事の公約となっている農業予算増額にも配慮したものになっております。そのような中、私は予算特別委員会にて下記の項目にて質問いたしました。

議会閉会后、例えば公共事業が速やかに発注されるよう最上総合支庁に足を運び、農産物の生育状況はどうかなど現地調査活動を始めております。しかしながら衆議院の解散、総選挙があり予定がなかなかつかない状況ですが、県民皆様の要望にしっかり応えられようという態勢を整えてまいりたいと考えております。

伊藤重成 県議会報告

レポート

Vol.9

ホームページ
<http://shigenari.us/>

■発行者/伊藤重成
■連絡先/〒999-4605 山形県最上郡舟形町長沢306

伊藤重成事務所

TEL.0233-33-2755/FAX.0233-33-2756

■メール/kengi-ito@estate.ocn.ne.jp

予算委員会質問要旨

1 最近の東国原知事や橋下知事の動向や国政等に対する知事の所見

答弁者/知事

2 介護保険制度における課題等

答弁者/健康福祉部長

- ①市町村における介護保険料の格差について
- ②特別養護老人ホームの入所待機者の状況と増床に向けた施設整備について

3 ひきこもり対策

- ①これまでのひきこもり対策について
- ②「自立支援センター巣立ち」オープン後の活動状況と今後の県の対応策について
- ③福祉目的のNPO法人に対する財政支援と活動の評価について

4 公共事業の発注状況と今後の見通し

答弁者/土木部長

5 入札契約制度の改正について

- ①低入札価格調査制度等の改正のねらいについて
- ②失格に対するペナルティの強化について

6 高速道路整備促進に向けた今後の展開

7 農業問題

答弁者/農林水産部長

- ①農林水産業産出額の向上について
- ②園芸産地化に向けた支援について
 - ・大規模プロジェクトに対する支援（JA山形もがみのネギ振興等）
 - ・産地化に向けた組織づくりへの支援

以上の要旨にて知事以下に質問しましたが、吉村知事は「大阪府の橋下知事らが呼びかけている首長連合については、政治に無関心な方々の興味・関心を引いた事は評価できるが、自身が参加する考えはない。」と中立を保ちたい旨の答弁でした。また今回の質問では増え続けている特別養護老人ホームへの待機者

減少に向けベッドの増床を計るべきではと足かせとなっている、いわゆる「参酌標準」の弾力的運用を提案し、その方向性を県当局に理解いただいたと承知している所です。金山町、舟形町、鮭川村、戸沢村が早速その動きを見せております。

さらに3,000億円の農林水産業産出額を目指すための施策ポイントについて、JA山形もがみにおけるネギ生産を例に挙げ、最上地区への園芸産地化にさらなる支援策を講ずるべきと求めました。

市町村ミーティング開催

最上地区では初めての吉村知事による「知事と語ろう市町村ミーティング」が金山町にて開催されました。

当日は約200名程の方が参加され、様々なご意見、ご要望が、会場より吉村知事になされました。

高橋前知事、斎藤前知事も県民の皆様と直接お話しされる事をかなり重要視なされておりましたが、その方法に個性を出す努力をしておいでのようなのです。私個人の考えとしては、それが陳情会、要望会になってしまうのが心配するところです。

やはり、あるテーマについては県民はどういうふうに考えているのか？また知事はどういうふうに考えているのか？という場面も必要だと思います。今回の金山町ではその仕切りが定まっていなようにも見えました。

35町村全てを巡る中でさらなるスキルアップが求められます。



7月10日/金山町会場

今後の日程

11月13日(金) 鮭川村
11月30日(月) 舟形町
が予定されています。



7月29日/大蔵村会場

新品種「つや姫」

県民が期待を寄せる県産米「つや姫」の栽培技術現地研修会が開催され、約30名の方々に同行させていただきました。最上総合支庁から送られてくる資料に、その日程が載っておりましたので、農業技術普及課の了解の許、金山、新庄、鮭川、そして舟形と4箇所廻りました。

地元の最上地区農協や一般農家でも栽培したいという声はかなりの数に上っており、そのような声の中、最上地方では15箇所にて栽培、試験圃となっております。

私も詳しくは把握していなかったため、改めて勉強になり、参加なされた皆様、栽培されている方の熱い思いが伝わってまいりました。と同時に、説明をいただいた県職員のこれまた熱い思いをひしひしと感じた次第です。

農家の皆様、消費者の皆様、いましばらくお待ちください。

